

ベビーカー利用の円滑化に向けた今後の取り組み

1. 現状と課題について

- 昨年の協議会とりまとめの公表後、キャンペーンなどを活用した普及・啓発を進めた結果、「ベビーカー利用にあたってのお願い」事項が国民へ徐々に浸透しつつあり、また、車両やエレベーターなどへのベビーカーマークの掲出も進んでいるため、公共交通機関等におけるベビーカーの利用環境は、従来に比べて改善しており、子供連れで外出しやすい環境が整備されつつある。
- 一方で、ベビーカーマークによりベビーカーを特別扱いすること、お願い事項に盛り込まれている「たたまずに利用が可能」であることに対する周囲の方の反発も、相変わらず強い。
- これは、ベビーカー使用者及び周囲の方の双方が配慮・理解することを前提としたお願いであるにも関わらず、「たたまずに乗れること」のみが注目され、一部のベビーカー使用者による複数台で固まっての乗車や、障害者・高齢者より優先されるという間違った認識に基づく行動が見受けられることが要因でもある。

<参考> ベビーカー協議会とりまとめ（H26.3.26公表）（抜粋）

P15

5. (1) ②ベビーカー使用者の配慮・心がけ

ベビーカー使用者が周囲にも配慮した操作を行うことで、周囲の方も、ベビーカー利用について比較的寛容に受け止めてくれる。

このため、ベビーカー使用者は、移動の際に、周囲の方の移動を妨げないような操作を行ってほしいことや、階段・エスカレーターを利用する場合には、ベビーカーや荷物を持ってもらうよう手助けを求めてみることなどをお願いするものである。

P22

6. 関係者の取り組み

(略)

なお、検討にあたって、エレベーターや車椅子スペースなどのバリアフリー設備の利用に関する当事者でもある障害者団体の意見も聴取したところ、同じ移動に制約のある立場としてどちらが優先ということではなく、お互いが譲り合って利用すること、また移動しやすい環境整備のためにハード・ソフト両面からの対策を講じてほしいことなどの意見が出された。

- このため、協議会でとりまとめたお願い事項を呼びかける前提となる「理解・配慮」について、周囲の方の理解・協力に関する啓発を引き続き行うとともに、ベビーカー使用者のマナー向上について、改めて認識してもらえよう、今一度重点的に周知を図る必

要がある。

2. 今後の取組方針について

○お願い事項のさらなる周知を図るため、協議会でとりまとめた「今後の普及・啓発」における取り組みを進めるとともに、引き続き様々な取り組みを活用して普及・啓発活動に努める。

<参考> ベビーカー協議会とりまとめ（H26. 3. 26公表）（抜粋）

P30

IV. 今後の普及・啓発

1. 関係者の役割

本協議会で作成した「ベビーカー利用にあたってのお願い」を実効性のあるものとするためには、ベビーカー使用者や周囲の方に対して、この「ベビーカーの安全な使用」及び「ベビーカー利用への理解・配慮」の内容を十分に周知し、浸透させていくことが極めて重要である。

このため、本協議会の構成員である国や交通事業者・施設管理者、ベビーカーメーカーは、広く国民やそれぞれが提供するサービスを利用する者に対し、広報・周知活動を行う。

さらに、子育て団体等その他の協議会構成員についても、広く普及啓発活動等を行うよう努める。

具体的には、以下のような取り組みを進める。

①国

- ・イベント等の開催（バリアフリー教室の活用 等）
- ・ポスターの掲示やチラシの配布について、関係省庁を通じた所管団体への協力依頼（流通業界、福祉・子育て関係団体 等）

②交通事業者

- ・駅や車内などでのポスターの掲示やチラシの配布
- ・鉄道やバス車両などへのベビーカーマークの掲出
- ・HPやアナウンスなどによる上記取り組みの周知

③施設管理者

- ・施設でのポスターの掲示やチラシの配布
- ・エレベーターなどへのベビーカーマークの掲出
- ・HPやアナウンスなどによる上記取り組みの周知

④ベビーカーメーカー

- ・製品の取扱説明書の（必要に応じた）見直し
- ・販売店等を通じたチラシの配布
- ・イベント、フェアなどでのポスターの掲示やチラシの配布
- ・HPなどによる上記取り組みの周知

⑤子育て団体

- ・関係者の理解や協力によるポスターの掲示やチラシの配布
- ・キャンペーンの実施やイベントの開催等への協力
- ・HPなどによる上記取り組みの周知

上記関係者の取り組みについては、継続的に実施することが求められるため、来年度以降も本協議会を存続させ、取り組み状況について定期的にフォローアップすることや、広報・周知活動を続けていくこととする。

○具体的には、以下のような取り組みを考えており、実施にあたっては協議会構成員の協力をお願いしたい。

(1) さらなる普及・啓発活動

- 昨年度及び今年度、協議会として5月に実施したキャンペーンや、子育て応援とうきょう会議によるこれまでの独自の取り組みなどを通じて、ベビーカーの利用環境の改善について幅広く普及・啓発を図ってきたところである。
- 今後も当面は、普及・啓発に向けた取り組みを継続して実施することが求められることから、キャンペーンについては今後も継続して実施したい。
- その他、さらなる普及・啓発を促進していくため、こういった手法・手段やどのような取り組みを実施することが効果的であるかなど、協議会構成員の方の率直な意見をお伺いしたい。

(2) ベビーカーマークに関するアンケート調査

- ベビーカーマークの認知度・理解度向上やベビーカーを利用しやすい環境を整備するための施策を検討する素材として、アンケート調査の実施を検討。